

FA業界掲示板

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/topics/>

■三菱電機、FAサイトで低圧遮断器、低圧開閉器のスプリングクランプ端子仕様の特設ページを更新
三菱電機は、FAサイトで低圧遮断器、低圧開閉器のスプリングクランプ端子仕様の特設ページを更新した。



スプリングクランプ端子仕様のプッシュイン接続のメリットはカンタン配線・省施工で、増し締めがいらぬ簡単メンテナンス、振動でも緩まない接続信頼性があり、同社ではスプリングクランプ端子仕様のラインアップを拡充し、定格電流50Aまで対応している。

低圧遮断器WS-Vシリーズ、F Style、サーキットブロッケータCP30-BA、電磁開閉器MSO-Tシリーズ、電磁接触器/電磁継電器S-Tシリーズ、インバータFREQUOLシリーズ、ネットワーク関連機器CC-Link IE TSN、CC-Link IE Field、シーケンサ・PLCのMELSEC iQ-Rシリーズ、MELSEC iQ-Fシリーズ、中継端子台の三菱電機エンジニアリングFAグッズなどをラインアップしている。

■横河電機、オープンイノベーション推進企業として知財功労賞の「特許庁長官表彰」を受賞

横河電機は、経済産業省特許庁から2023年度の知財功労賞の「特許庁長官表彰（オープンイノベーション推進企業）」を受賞した。

2015年の創立100周年を機に顧客と価値を共創していく意志を込めたコーポレート・ブランド・スローガン「Co-innovating tomorrow」の制定、オープンイノベーションの組織を立ち上げ、研究開発で社内、外部の研究機関、大学、顧客企業などとの連携を推進してきたこと、オープンイノベーション機能を有する海外拠点を設置したことなどが評価された。

■三菱電機、IoT活用事例に、システムレコーダを使った設備トラブルの原因究明を公開

三菱電機は、FAサイトのIoT活用事例に、システムレコーダを使った設備トラブルの原因究明を公開した。

設備トラブル時のエラーを再現できず、原因究明に時間を要しているという課題に対し、システムレコーダを導入して原因究明に要する時間を93%削減し、稼働率が向上した事例を紹介している。



■三菱電機、5月10日からインテックス大阪の「未来ものづくり国際EXPO」に出展

三菱電機は、5月10日から12日までインテックス大阪で開催される「未来ものづくり国際EXPO」に出展する（ブース：2-23）。

ブースでは、ワイヤ・レーザ金属3Dプリンタ「AZ600」電子ビーム金属3Dプリンタ「EZ300」の2種類の3Dプリンタによる未来のモノづくりを造形サンプルや動画での紹介に加え、3Dシミュレータ「MELSOFT Gemini」で、実ラインさながらの検証により設計工数の削減や生産性の向上、また再現シミュレーションによる保全工数の削減の提案、ゼロセロ



ボティクス・三菱電機システムサービスと連携して構築した、協働ロボット「ASSISTA」を使った最先端のロボットシステムを紹介する。

■IDEC、本社技術センターの「いずみの森」がSEGESの「育てる緑」部

門において大阪市で初認定

IDECの本社技術研究センターにある「いずみの森」が、都市緑化機構が実施するSEGES（シージェス：社会・環境貢献緑地評価システム）の「そだてる緑」において、「Excellent Stage2」の緑地として認定を取得した。



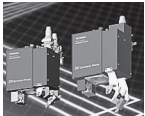
いずみの森は、2018年にリニューアルした本社の中庭に、地域の在来種を中心とする30種類以上の樹木を植えて森を再現したもの。都心の生きものが集まる場を創出し、職場や食堂などから緑が目に入るよう配慮することで、社員が一息つける環境となっている。3階屋上にも緑空間を配置し、ハーブを育てることでリラックス効果を提供し、職場環境づくりの手段の一つとして緑地を活用している。周辺の新大阪は緑が少ないことから、地域に対して少しでも心地よい緑や季節を感じられるよう、本社前にも植栽を設置している。

■フエニックス・コンタクトの特約店に山形県の高洋電機が追加

フエニックス・コンタクトは、山形県山形市の制御機器商社の高洋電機と特約店契約を締結し、2023年4月から特約店となった。

■安川電機、テクニカルレポート・新世代レーザー対応3Dガルバノヘッドユニット開発を発行

安川電機は、最新の技術情報をレポート形式および論文形式で紹介するテクニカルレポートについて、最新号として「高反射材料の溶接に最適な新世代レーザー対応3Dガルバノヘッドユニットの開発～Photonix2022光・レーザー技術展の振り返り～」を発行した。



■EPLAN、ブログ公開「どちらの電気CADが自社に合う？ 標準ソフトウェアVSカスタマイズ」

EPLANは、ブログ記事として「どちらの電気CADが自社に合う？ 標準ソフトウェアVSカスタマイズ」を公開した。

パッケージベースの標準電気CADと、要件に合わせて開発するカスタマイズ電気CADがあるなかで、導入前検討においてどちらが自社に合うのか？ パッケージベースの標準電気CADの代表としてEPLANとカスタマイズが必要となる電気CADを比べている。



■日東工業、アークエルテクノロジーズのEV充電ソリューションにEV充電器連携開始

日東工業は、同社製Mode3普通充電器「Pit-2G（ビット・ツージー）」シリーズが、アークエルテクノロジーズ（福岡市）のEV充電ソリューション「AAKEL eFleet」に対応するEV充電器として採用された。

この連携によりEV充電器Pit-2G通信モデルにおいて、EVのスマート充電と複雑な運行管理を全て一括管理・自動化する「AAKEL eFleet」の機能を利用することが可能になる。



■中央無線電機藤木常雄氏のお別れの会、故人を偲び多数参列

2023年1月12日に98歳で死去し中央無線電機創業者で、元社長・会長の藤木常雄氏のお別れの会が、東京・丸の内の東京會館で4月12日に執り行われ、仕入先や同業関係者などが多数参列。在りし日の故人を偲び最後のお別れをした。

藤木常雄氏は1924年8月29日新潟県佐渡郡で生まれ、41年目黒通信学校（現電気通信大学）卒業後、

東京・三鷹の航空研究所で1年間学び、42年日本電気に入社。44年通信部隊に入隊。

終戦後の51年に27歳で、東京・池袋に藤木ラジオ研究所を個人で創業し、ラジオの修理・組み立てを開始。翌52年、東京・秋葉原に中央無線電機株式会社を設立し、社長に就任した。



戦後の焼野原と化した秋葉原に約2坪のバラック建ての店舗で電気専門の小売りを開始。現在の世界の秋葉原に成長していく礎を築いた1人であった。

91年、社長を現会長の藤木正則氏に譲り、会長就任。2011年～16年まで相談役。

お別れの会では、亡くなる1月12日までの行動や出来事を書きで記録した日記の一部も披露され、改めて藤木氏の几帳面さの一端を伺わせた。

2024年6月末。

■オムロン、2024年3月でマイクロスイッチDZ-10GW22S55-ML VSF0.5MとZシリーズ一部商品を生産終了

オムロンは、2024年3月でマイクロスイッチDZ-10GW22S55-ML VSF0.5MとZシリーズ一部商品を生産終了する。最終受注は2024年3月末、最終出荷は2024年6月末。推奨代替品はなし。

■オムロン、2024年3月で温度調節器ES2-Mを生産終了

オムロンは、オムロン、2024年3月で温度調節器（デジタル調節計）ES2-Mを生産終了する。最終受注は2024年3月末、最終出荷は2024年6月末。推奨代替品はなし。

■オムロン、2024年3月でネットワーク機器XS8シリーズなど生産終了

オムロンは、2024年3月でネットワーク機器「XS8シリーズ」と「SCA1-4F10」、「SCN1シリーズ」「SRS2-1」の生産を終了する。最終受注は2024年3月末、最終出荷は2024年6月末。推奨代替品はなし。

■オムロン、2024年3月末で押しボタンスイッチ/表示灯A3D-4101を生産終了

オムロンは、2024年3月末で押しボタンスイッチ/表示灯「A3D-4101」を生産終了する。最終受注は2024年3月末、最終出荷は2024年6月末。推奨代替品はなし。

セミナー・イベント情報

■ロックウェル、5月16・17・18日にリアルイベント「デジタル設計の活用事例と技術動向」開催

ロックウェルオートメーションジャパンは、5月16・17・18日にAP日本橋・ベルサール八重洲でリアルイベント「デジタル設計の活用事例と技術動向」を開催する。

日本の自動車・タイヤ・製薬・食品・飲料などの製造業、物流業ではグローバル競争環境下製造における生産性の改善が今までにないレベルで求められており、それぞれの分野で専門的知見のもと製造ライン提供を担うラインビルダ、生産設備メーカ、システムインテグレータ、オートメーション技術の提供者も一体となってデジタル改革を進めることが最も重要となっている。

そこに向けて同イベントでは、米国発グローバル自律型工場・未来の製造業において、クラウド上のエミュレーションにより、フロントローディング・計画の精度を高め、生産現場における実効性のあるDXが実現できるソリューション群を紹介する。

5月16日は自動車産業向け、5月17日は物流・自動車産業向け、5月18日は医薬品・食品産業向けの内容で、参加費は各日5000円。対象は設計部門全般・生産管理・生産技術・品質保証・DX推進・IT推進・業務改革部門の担当に適したものとなっている。

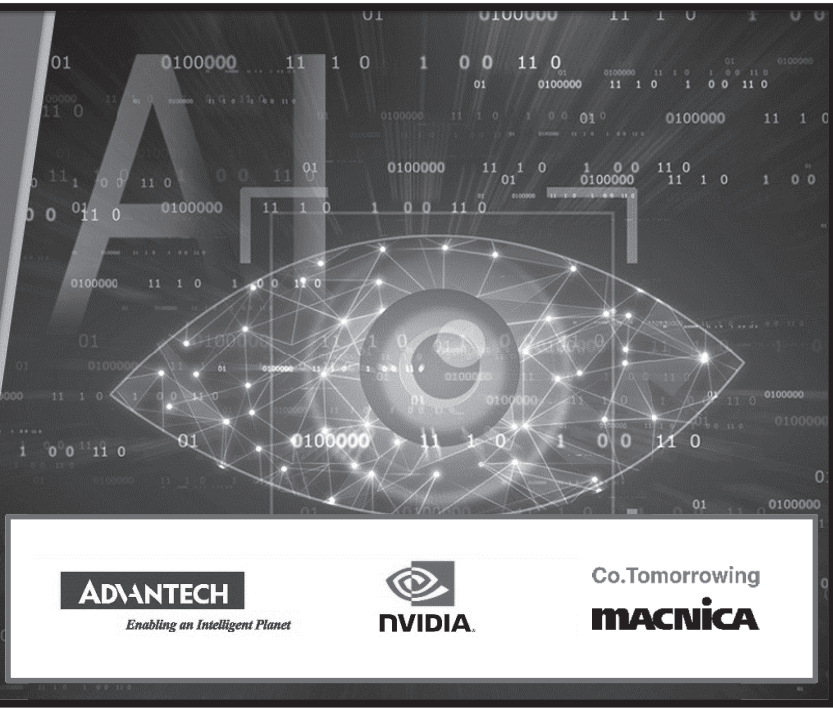


産業用AIの『今』をお届け！

Tokyo AI
フォーラム

製造業DX
スマートシティ

2023
4/20 THU
KANDA SQUARE
13:00～16:20



キーノートスピーチ：アドバンテック・NVIDIA・マクニカ

全11社登壇
無料イベント

製造業DXセッション：コンピュータマインド・タカノ・フツパー・アイシン
スマートシティセッション：ニューラルポケット・AWL・アジラ・Allxon

最新のAIソリューション・新製品・AI導入事例等について講演形式でご紹介します。

詳細・申し込みはこちら⇒

主催：アドバンテック株式会社
<https://www.advantech.com/ja-jp>



tu na ga ru

ユーエイ ツナガル システム

Powered by
EnOcean
Self-powered IoT



IoT × キャスターが
世界を変える

ツナガルシステム 特設サイトをチェック

キャスターの総合メーカー www.yuei-group.com

株式会社 ユーエイ



IoTシステムを体験できるショールーム
YUEI Technology Center (YTC東京)
詳細はこちら！

技術評価を外部委託する際に重要な委託側の観点

付加価値を
付けるヒント

もし、品質でなく、魅力品質で考えることがチャレンジするうえで大切なことだと思います。

日本をさらに良しとするために設立。企業間・企業との提携へのソリューションの提供、新たな技術や素材への情報提供、それらの基礎となる企業間のワイワイガヤガヤな勉強会、セミナー、ワークショップ、工場見学、公開セッション指導会を行っている。

■詳細・入会はこちら
<https://www.kazunoproject.jp/>

エキスパート待望 ▶78

結論から言うと「技術評価依頼書」が委託者の準備すべき書類です。書くことはそれほど複

それ以外に、測定後のサンプルを返却いただきたい。

もちろんまだ書くことはあるかもしれませんが、前述の

技術評価依頼書の作成
スキルは技術報告書作成
スキルと共通

「依頼書の基本構造を理解させる」というのがマネジメントの行う教育です。

中身については、技術的にわからないことを調べることももちろんですが、何より技術者に求められる最重要スキルの一「論理的思考力」が強く求められます。自らを俯瞰的に見ながら、

求める技術評価結果を得るには、どのように伝えればいいのか。これは、読者にわかるように技術的な事実を伝えるにはどうしたらいいのか、という技術報告書作成スキルとほぼ同じなのです。

技術評価依頼書をかける
よつになるにはまずは
数をこなすこと十
焦らないこと

どのようにすれば技術評価依頼書を書けるようになるか。このような質問を受けることがあります。答えは簡単です。「とにかく量をこなす」です。技術者の文章作成力は頭でどれだけ考えても上達しません。

本や参考書を読んだだけでも改善しません。考えたこと、得られた知識を、「実際に用いて

これまでのお客さまは、流通業者であったかもし
れませんが、本当に使う
お客様を見て、製品を機
能品質でなく、魅力品質
で考えることにチャレン
ジすることが大切だと考
えています。

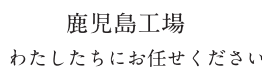
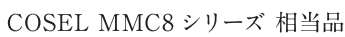
一般社団法人日本カイゼンプロジェクト



 日本カイゼンプロジェクト

■詳細 入会はこちら
<https://www.kaiizenproject.jp/>

お客様の「困った」から製品が生まれます



日昭無線株式会社
Nissho Musen Co., Ltd.

www.nmk.co.jp

工場新設・増設、設備投資情報

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/factory/>

国内

■**泉工業、千葉県市川市の一般廃棄物処理施設が竣工**
住友大阪セメントのグループ会社の泉工業は、千葉県市川市の市川リサイクルセンター（千葉県市川市二俣新町）の一般廃棄物処理施設が竣工した。

完成した処理施設では焼却灰の選別・破砕を行い、処理能力は1日当たり640トンのになる。また、処理施設に併設した保管庫は、最大2600トンの保管容量を有し、焼却灰の安定的な受入れが可能となっている。処理後の焼却灰は、全量をグループのセメント工場に運搬し、セメントの原料として再資源化される。工場への運搬は車両輸送だけでなく、隣接する船積バースからの船舶輸送が可能のため、市川リサイクルセンターの処理施設の稼働により、大量かつ効率的に焼却灰を処理することが可能となり、輸送に伴うCO₂の削減にも繋がる。

■**トシコ、愛知県一宮市に非粘着表面処理の工場を新設移転**

表面処理メーカーのトシコは、愛知県一宮市に新工場を建設し、中部地区での生産拠点である関ヶ原工場から移転した。



同社は凹凸効果による非粘着表面処理を行い、これまで埼玉県川越市の本社工場と岐阜県関ヶ原町の関ヶ原工場との二拠点体制にて生産を行ってきた。関ヶ原工場は、1996年に操業を開始した工場で建物等の老朽化などが散見されるようになり、今後の多様なニーズに素早く対応するため、新工場をグループ会社のフロコート名古屋の隣地に移転した。

新工場では、新規にパッチ炉と水洗ブースを導入することで生産能力の向上を目指す。現状と比較し生産能力は1.8倍となり、新工場の建屋の屋根にソーラーパネルを設置し低炭素社会への対応に向けて、ESGに配慮した工場運営を行っていく。2023年4月28日に竣工、5月16日からの生産開始を予定。総投資額は4億5000万円（土地、工場、新規設備投資含む）敷地面積は1640平方メートル。建屋面積は826平方メートル。

■**スリッター専門メーカーの西村製作所、京都府亀岡市の亀岡工場が竣工**

スリッターメーカーの西村製作所は、建設を進めていた亀岡工場（京都府亀岡市篠町夕日ヶ丘四丁目

4-1）が完成した。

同社は、リチウムイオン二次電池および電子部品関連向け装置の需要増に対応するため、生産体制の強化に取り組んでおり、その一環として2018年および2021年に宇治組立工場を増床したが、更なる増産体

制を整えるため新工場を立ち上げた。中型機種（FQ型等）を10台同時に組み立てられることができるだけのキャパシティを持ち、高度なセキュリティの導入とクリーンな現場環境を実現している。

敷地面積は5234平方メートル。建築面積は延べ2177平方メートル。鉄骨造平屋建。

■**ニューオークボ、千葉県柏市に乾燥パスタ製造の新工場**

パスタ製造のニューオークボは、千葉県柏市高柳859番地5に新工場を建設する。

新工場では、生産能力の確保、生産ラインの再構築、安全衛生基準のさらなる強化を目指し、現在の増尾工場（千葉県柏市増尾6-1-15）の乾燥パスタ製造ラインを全て新工場への移設する。新工場完成により、ひとつの敷地内に冷蔵生パスタ・冷凍生パスタ・乾燥パスタの全ての温度帯のパスタをフレキシブルに製造可能な総合パスタ工場となり、さらに建屋内に新たにテストキッチンを設置する予定となっている。



■**太陽ファルマテック、大阪府高槻市に遺伝子治療用製品製造施設竣工**

太陽ホールディングスの子会社で医薬品製造受託事業を担う太陽ファルマテックは、高槻工場内に遺伝子治療用製品製造施設を竣工した。同工場でAAV（アデノ随伴ウイルス）をはじめとしたウイルスベクター製品、その他遺伝子治療用製品の受託製造に対応している。



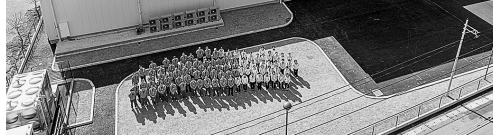
新施設は、国内GMP、PIC/S等海外GMPに準拠し、開発初期の小スケールでの試作製造から200Lスケールでの大量製造まで対応可能。遺伝子組換え微生物の拡散防止機能を持ちカルタヘナ法に準拠し、クリーンルームは、PIC/Sに準拠した無菌医薬品製造区域として空間差圧、清浄度等のグレード設計を行い、高度なDI（ダウスタインテグリティ）対応の環境モニタリングシステムを実装している。アップストリームからダウンストリームまでの一連のモジュールをつなぐプラットフォームであるCytiva社のFlexFactoryを採用し、クライアントの相談開始から製造までのスピードアップ、少量多品種の製造に対応。製剤化のバリアシステムに無菌アイソレータを採用し、小スケールから無菌ろ過、無菌充填の対応が可能となっている。

■**立川機工、千葉県山武市に新成形棟を竣工**

立川ブラインド工業の連結子会社で、ブラインドや間仕切、カーテンレール等の部品を製造する立川機工は、最新設備を備えた成形棟を新設し、4月より樹脂成形品生産を開始した。

これまで場内に点在していた原材料受入・在庫へ生産ラインへ金型メンテナンスへ出荷の各工程や機能を新成形棟に集約することで、場内の動線が大きく改善され、整流化により生産性の向上や品質改善を実現したほか、新規成形機の導入による生産品目の拡大と、生産能力の向上により、一部外注している部品の内製化を行い、コストダウンを進める。建屋も断熱性が高く、冷暖房効率を追求するとともに、建屋の照明は全

てLEDを採用する等、省エネで地球環境に優しい生産を実施。また、建屋の竣工に合わせて導入する成形機は、従来の油圧式に比べてより省エネな電動式を採用している。



■**東洋紡、愛知県犬山市の犬山工場にOPPフィルム**

の生産設備を新設
東洋紡は、犬山工場（愛知県犬山市）に、二軸延伸ポリプロピレンフィルム（OPPフィルム）の新シリーズである超高剛性OPPフィルム「パイレンEXTOP」をはじめ、食品包装・産業資材用途の各種OPPフィルムを生産する設備を新設し、2月より一部銘柄の量産を開始した。

新設した生産設備では最新鋭の製膜機を導入し、一般的なOPPフィルムの約1.7倍の腰の強さを持ち、包装材におけるプラスチックの使用量や燃焼時の二酸化炭素排出量を削減できる「パイレンEXTOP」などを高効率に生産でき、環境に配慮したフィルム製品の供給体制を強化する。また、炎や煙を感知するセンサー類や消火設備を増強するなど、安全・防災機能のさらなる充実も図っている。



延床面積は約1万平方メートル、鉄骨2階建（一部3階建）。

■**三菱電機、SiCパワー半導体の生産体制強化に向け新工場棟を建設**

三菱電機は、SiCパワー半導体の生産体制強化に向けた新工場棟の建設をはじめ、パワーデバイス事業における2021年度から2025年度までの累計設備投資を従来計画から倍増させ、約2600億円を投資する。

同社は今回、SiCウエハについて約1000億円を投資して新工場棟の建設と設備増強を実施する。この新工場棟は、熊本県西水地区に有する拠点を活用し、大口径化（8インチ）に対応するとともに、最先端の省エネ性能を有するクリーンルームを導入し、徹底した自動化によって高い生産効率を実現する。また、市場の旺盛な需要に対応するため6インチウエハ製品の生産設備も増強し、さらなる事業拡大を目指す。

この他、約100億円を投資してパワー半導体の後工程の新工場棟を福岡地区に建設し、同地区内に点在する組み立て・検査工程を集約する。

■**日立Astemo阪神、兵庫県三田市に太陽光発電設備を導入**

日立Astemoのグループ会社である日立Astemo阪神は、カーボンニュートラルに向けた取り組みとして、太陽光発電設備を兵庫県の三田工場に設置し稼働

を開始した。

太陽光発電設備を工場に設置してもアセットは自社で持たずに発電量に応じた電力使用料金を支払う自家消費型オフバランス太陽光発電スキームを導入。同スキームに沿って約300kWの発電を開始し、年間の発電容量は約315MWhとなる見込みで、年間約126t-CO₂のCO₂排出量削減を目指す。



■**三菱ケミカルグループ、福岡事業所にポリカーボネート樹脂ケミカルリサイクルの実証設備を建設**

三菱ケミカルグループは、ポリカーボネート樹脂ケミカルリサイクルの世界初の事業化に向けて、2030年に年間1万トンの規模の処理能力の実現を目指す検討を開始した。福岡県北九州市の現在福岡事業所に実証設備を建設中で、2023年8月の完工後、同年度中に実証実験を完了し具体的な事業化検討を進める予定。



■**愛知製鋼、ステンレス鋼製造プロセス供給能力増強**

第1ステップとしてステンレス鋼用電気炉を刷新
愛知製鋼は、2030年ビジョンに基づく成長戦略として、2026年度までにステンレス鋼材の供給能力を2019年度比で4割増強（9万トン/年体制）し、水素社会の実現やインフラの刷新、長寿命化に向けた需要拡大に対応することを目指しており、その第1ステップとして約10億円を投じて、ステンレス鋼用電気炉「50トン溶解炉（1号電気炉）」の炉殻および制御システムを更新し、電気炉の刷新を行った。これにより電気炉刷新による操業の安定化と炉容積拡大による原材料配合比率の最適化、リサイクル性の向上に加え、つくりの可視化・最適化によるスマートファクトリーの実現（DX）に向けたIoT基盤の構築とそれによる品質向上、エネルギーロス低減、原材料の歩留向上、自動化による作業負荷軽減を目指す。また電気炉制御システムの更新で溶解効率向上によるCO₂低減も実現する。



■**メック、福岡県北九州市に生産拠点設置**
電子基板・部品製造用薬品の開発、製造販売を行う

メックは、半導体を搭載するパッケージ基板のさらなる需要の増加を想定し、製品の安定供給に向けた生産体制強化に向け、新たな国内生産拠点を福岡県北九州市若松区向洋町に設置する。面積は2万9889平方メートル。

挑戦する盤メーカーをサポートする会社

コスト、生産性、脱炭素。
それだけにどとまらない、
銅バー加工の外注化の
メリットをお伝えします。

株式会社ジャストプロダクツ

UNIX JAPAN UNIX

世界の製造業が採用
IPC 品質標準規格

グローバルに通用する製品品質を備え、
世界各地での躍の第一歩に――



ジャパンユニックスでは
IPCの標準規格書・情報・サービスを提供しています

IPC 標準規格書 無料版 まずは web からダウンロード

『IPC』『規格』『無料』で 検索

はんだ付工程を
見える化する

卓上型はんだ付ロボット UNIX-DF シリーズ

- 『Soldering Manager』でははんだ付のIoT化へ
ジャパンユニックス独自のはんだ付ロボット管理ソフトウェア・『Soldering Manager』を使用して
モニタリング・稼働ログの保存が可能
- 3D ソルダリングの実現
付加軸 2軸を加えた6軸同時制御により
ロボット操作のみで複雑形状の製品へのはんだ付が容易に



ジャパンユニックス製品 導入事例集 web にて公開

『はんだ付 導入事例』で 検索

株式会社 ジャパンユニックス
<http://www.japanunix.com>

本社 〒107-0052 東京都港区赤坂2-21-25 Tel. 03-3588-0551 Fax. 03-3588-0554

大阪営業所 Tel. 06-6190-4580 Fax. 06-6190-4581

名古屋営業所 Tel. 052-679-2111 Fax. 052-679-2112

テクノセンター Tel. 096-287-4501 Fax. 096-287-4503